

## 八王子丘陵におけるイノシシの状況と対策について

太田市役所農政部農業政策課 金澤 誠

### 1 はじめに

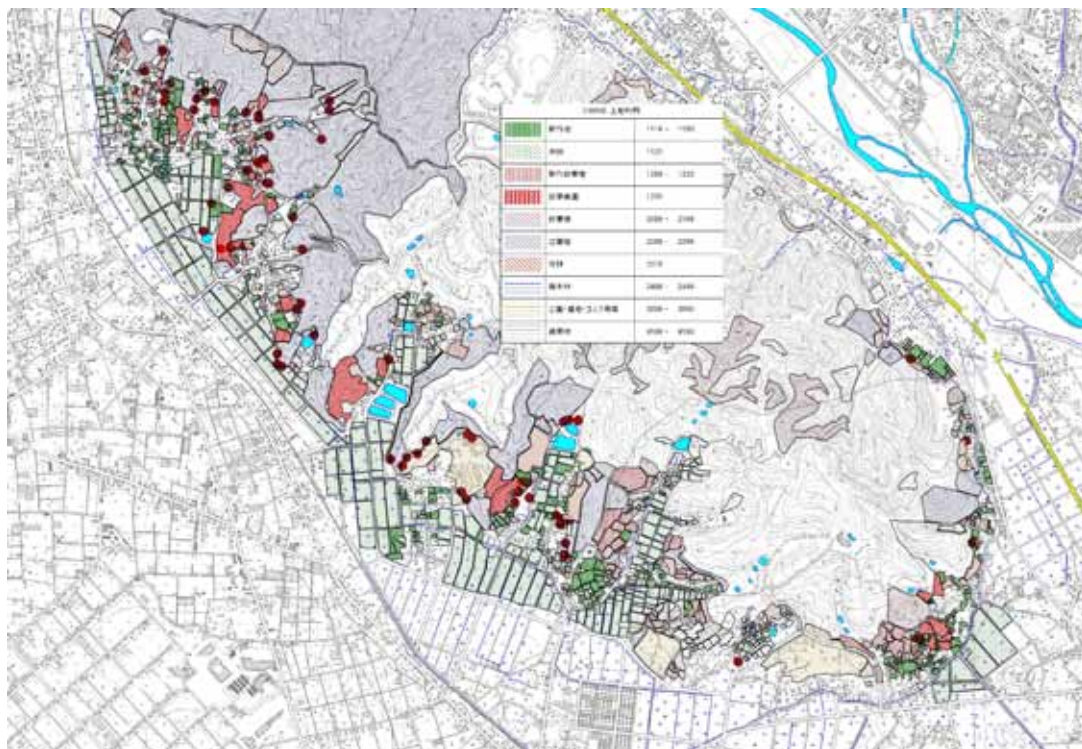
八王子丘陵は、北東を桐生市、南西を太田市、北をみどり市に接した里山で、「平地に広がっている丘陵地帯」である。八王子丘陵の太田市側におけるイノシシの生息については、これまで旧藪塚本町を中心に少頭数捕獲が報告されていた。合併後、イノシシの捕獲頭数は平成18年度に22頭(藪塚地区20頭、太田地区2頭)、平成19年度に34頭(藪塚地区29頭、太田地区5頭)、平成20年度41頭(藪塚地区21頭、太田地区20頭)と徐々にではあるが、増加傾向が見られ始めた。さらに、平成21年度には、2月15日現在で152頭(藪塚地区121頭、太田地区31頭)と平成20年度の4倍近い捕獲頭数となっている。

捕獲数の増加と比例して、「八王子丘陵から平地へ」とイノシシ分布域に拡大傾向が認められ、より人里近くへとその生息域を広げ続けている傾向が明確になってきた。

### 2 八王子丘陵におけるイノシシの生息・検体調査

そこで、平成21年度に太田猟友会、藪塚猟友会協力の下、「八王子丘陵におけるイノシシの生息調査」を実施した。調査では、イノシシの足跡、掘り返し、ヌタ場、糞等の生活根や耕作地か放棄地か等の土地利用状況を「地図に落とす」ことを中心に実施した。

調査の結果、イノシシは「放棄桑園沿い」に動き、多く出没していることが明らかとなった。また、生息調査と合わせて捕獲されたイノシシの「検体検査」も実施しているが、八王子丘陵で捕獲されたイノシシの胃はクズの根で満たされており、八王子丘陵はイノシシにとって「豊富な



八王子丘陵におけるイノシシ生息調査結果

餌場」であることも明確となった。

### 3 八王子丘陵におけるイノシシ対策

八王子丘陵におけるイノシシ対策は、これまでのような、ただ漫然と捕獲するだけではなく、「総合的な地域ぐるみの対策」が必要である。

#### ①. 地域ぐるみの刈り払い

まず、八王子丘陵全体の環境整備を地道に、少しずつ住民主体で実施していく必要がある。<sup>15</sup> 太田市では「1%まちづくり事業」や「太田市地域活動推進事業」といった市民との協働参画事業を実施しており、この中で地域ぐるみの荒れ地、藪等の下草刈りができればと考えている。さらに、放棄桑園対策を住民合意の下で進めていく必要がある。

#### ②. 地域住民協力による捕獲檻管理

次に、「住民参加型の捕獲体制整備」を考えている。これは、農業被害者を中心にわな猟免許取得を推進し、捕獲檻の見回りや餌やり等の管理を地域住民の協力により実施してもらい、止め刺しのみを猟友会の方々にお願いしていくもので、捕獲許可申請者である太田市が地域住民が行う部分を含めた作業全般へ関与するものである。

#### ③. 地域管理による電気柵設置

平成21年度に、農地有効利用促進整備事業で、八王子丘陵山麓でイノシシ被害を受けている水田に電気牧柵を設置することとなった。今後、「地域による管理」を条件に、収穫後も恒常的に電気牧柵に電流を流していく予定である。

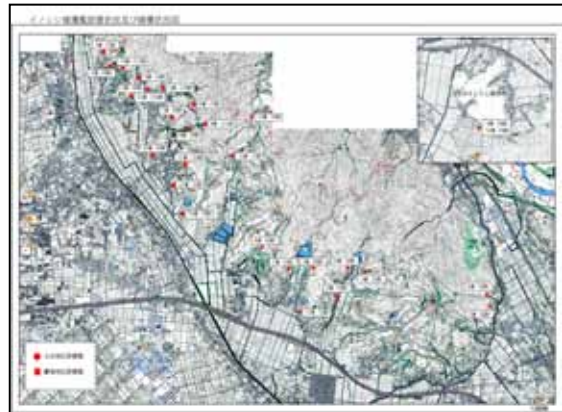
### 4 今後の課題

八王子丘陵におけるイノシシ対策は、イノシシが短期間で急増したことにもよるが、行政、住民共にまだまだ知識不足であり、早急に結果を求め過ぎると失敗する恐れがある。その中で、最も重要なことは行政主導ではなく、「住民参加型」で被害対策を効果的に進めていくことである。今後、八王子丘陵におけるイノシシ対策では、地域住民自身による対策を根幹とする必要がある。

また、今後は、八王子丘陵北側でも捕獲実績を上げている桐生市とも協力連携し、「八王子丘陵全体」で対策を練っていく必要がある。



八王子丘陵山麓の地域住民による刈り払い



八王子丘陵における捕獲檻設置位置図



八王子丘陵山麓での電気牧柵設置予定水田